



News Letter No.14

第12回 日本シニア小児科医連盟 総会・講演会 開催のお知らせ 2026年4月17日(金)17:30~21:00

内容

1. 第12回大会開催にあたり
山口大学名誉教授
古川 漸

2. 代表幹事挨拶
順天堂大学名誉教授
新島 新一

3. 抄録

JCHO徳山中央病院健康管理
センター 内田 正志

医療法人テレサ会西川医院
発達診療部 林 隆

4. 幹事名簿

第12回日本シニア小児科医連盟総会・講演会開催にあたり
会長:山口大学名誉教授 古川 漸

第12回日本シニア小児科医連盟総会・講演会の世話人を務めさせていただきます古川です。山口大学退官から17年が経ちました。

第129回日本小児科学会学術集会を山口大学大学院小児科学講座長谷川俊史教授が下関市で開催させていただくことになりました。山口大学は今年開講80周年を迎えますが日本小児科学会学術集会は初めての開催です。地方開催でご不便をおかけしますが、地方ならではの良い所も沢山ございます。学術集会とともに歴史を誇る山口県の観光と本場下関のとらふくコースを楽しんで頂ければ幸いです。

山口大学小児科同門会会長内田正志先生と同副会長林 隆先生に講演をお願いしました。内田先生はJCHO徳山中央病院健康管理センター長で、“腸重積症のエコー下整復の実際”というテーマでの講演です。日本小児超音波研究会の初代理事長で第1回日本小児超音波研究会学術集会を主催されました。小児の腹部エコーでは日本の第一人者です。林先生は西川医院発達診療部部長、発達障害研究センター長で今回は“発達障害臨床から学ぶ支援に役立つ問題行動の新解釈”というテーマでの講演です。日本小児精神神経学会第116回学術集会大会長を歴任され、発達障害関連の学会で教育講演など多数の講演をされています。

日本シニア小児科医連盟総会・講演会は下関グランドホテルで開催します。

おいでませ山口へ

第12回 日本シニア小児科医連盟 総会 & 学術会議

事務局幹事 新島 新一

ご挨拶

第129回日本小児科学会学術集会(会頭 長谷川 俊史教授 山口大学大学院医学系研究科医学専攻 小児科学講座)が2026年4月17日(金)～19日(日)に山口県下関市で開催されるのに合わせ、4月17日(金)に第12回日本シニア小児科医連盟総会・講演会は山口大学名誉教授 古川 漸先生が下関グランドホテルで開催されます。

今回は内田 正志先生(JCHO徳山中央病院健康管理センター)並びに林 隆先生(医療法人テレサ会西川医院 発達診療部)にご講演を頂きます。最後に、この日本シニア小児科医連盟会議を通じて、少しでも我が国の子どもたちの福祉、健康の増進並びに母子保健の向上に貢献できれば幸いです。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

第1回から11回までの世話人・ご講演演者(敬称略)

第1回 世話人 衛藤 義勝
講演: 安次嶺 馨、山城 雄一郎

第7回 世話人 伊藤 進
講演: 伊藤 進、衛藤 義勝

第2回 世話人 清野 佳紀
講演: 清野 佳紀、中畑 龍俊

第8回 世話人 鈴木 順造
講演: 松平 隆光、西 美和

第3回 世話人 山城 雄一郎
講演: 山城 雄一郎、吉岡 章

第9回 世話人 新島 新一
講演: 中村 友彦、新島 新一

第4回 世話人 児玉 浩子
講演: 児玉 浩子、藤村 正哲

第10回 世話人 廣瀬 伸一
講演: 廣瀬 伸一、遠藤 文夫

第5回 世話人 松石 豊次郎
講演: 松石 豊次郎、仁志田 博司

第11回 世話人 鈴木 悟
講演: 早川 昌弘、鈴木 悟

第6回 世話人 小泉 晶一
講演: 小泉 晶一、横谷 進



【日時】2026年4月17日(金)(第129回日本小児科学会第1日目)
17:30~21:00 ※17時00分に開場

【会場】下関グランドホテル「望潮」(3階)
〒750-0006山口県下関市南部町31-2

【アクセス】サンデンバス 唐戸下車、徒歩1分

【会費】1万円(意見交換会費用含む)



◆プログラム◆(敬称略)

●17:30～17:50 総会

●17:50～18:50 講演会

講演1. 司会 古川 漸 (山口大学名誉教授)

「腸重積症のエコー下整復の実際」

JCHO徳山中央病院健康管理センター

内田 正志

講演2. 司会 新島 新一 (順天堂大学名誉教授)

「発達障害臨床から学ぶ支援に役立つ問題行動の新解釈」

医療法人テレサ会西川医院 発達診療部

林 隆

●19:00～21:00 意見交換会

会場:下関グランドホテル「望潮」(3階)

※会場の移動無し

第11回シニア小児科医連盟 講演抄録

講演1.「腸重積症のエコー下整復の実際」

JCHO徳山中央病院健康管理センター 内田 正志

小児科医(1977年)になってまもなく超音波検査(腹部エコー)と出会い、その魅力(痛み&放射線被ばくなし)に取りつかれ、小児の様々な消化器疾患の診断や経過観察に活用し、その有用性を多くの小児科医や小児医療に携わる医療者に伝えることをライフワークと考え、様々な活動をしてきました。

今回はこのような講演の機会をいただき光栄に存じます。腸重積症は小児の急性腹症の中で急性虫垂炎と並んで代表的な疾患で小児科医であれば誰でもが遭遇した経験のある疾患です。そのありふれた疾患の診断と治療の現状についてお話ししたいと思います。

いま思い起こせば、腸重積症のエコー診断とエコー下整復推進普及の原動力となったのには二つの出来事あったように思います。

ひとつは地方会でエコー診断の有用性を発表した際にベテラン小児科医から言われた言葉です。「腸重積症の診断には年齢と3主徴が大切で、そのような機器に頼るより、もっと臨床の腕を磨きなさい」。確かに臨床の腕を磨くことは大切ですが、その後の経過はいかがでしょうか？現在、腸重積症の診断にエコーを活用しない小児科医がいるのでしょうか？以前は腸重積症疑いで高圧浣腸行い、診断を確定し、引き続いて治療をしていました。現在はエコーで診断確定したのち、X線透視下かエコー下に整復しています。

もうひとつは小児救急医学会でエコー下整復の有用性を発表した際に、大御所の小児外科医から言われた言葉です。「X線透視下整復には客観性があるが、エコー下整復には客観性がない」。この時はうまく反論できなかったと思いますが、その言葉を糧に、エコー下整復の客観性とは何かを追求し、エコー下整復を完成させました。そして、日本小児救急医学会編の『エビデンスに基づいた小児腸重積症の診療ガイドライン』改訂第2版の作成にも関わらせていただき、エコー下整復完了の客観性を示す4つのエコー所見を掲載することができました。エコー下整復の普及はまだ道半ばですが、これからも普及に努めたいと思っています。講演ではエコー下整復の実際の動画もお示ししたいと思います。

講演2.「発達障害臨床から学ぶ支援に役立つ問題行動の新解釈」 医療法人テレサ会西川医院 発達診療部 林 隆

私は山口大学医学部小児科、山口県立大学看護学部・健康福祉学研究科、山口赤十字病院小児科、済生会山口病院、山口リハビリテーション病院に加え、児童心理治療施設(旧情緒障害児短期治療施設)、療育機関(児童発達支援事業所・放課後等デイサービス)、生活介護事業所の嘱託医、そして現在の西川医院において、43年間ほぼ同じ地域で発達障害の診療と臨床研究に携わってきました。その中で、現在は神経発達症／発達障害としてまとめられるこどもたちを、幼少期から成人期まで長期にフォローアップする機会を得ました。長い時間とともに過ごすことで、「問題行動」と呼ばれる行動が、その子なりの発達や環境への適応の結果として現れていることを、繰り返し実感してきました。

近年、発達障害臨床が大きく広がった背景には、発達障害者支援法の制定、特別支援教育の開始、ADHD治療薬の登場といった社会的な変化があります。これにより、外部環境を整える社会心理的アプローチと、内部環境に働きかける薬物療法という二つの環境調整を組み合わせ、生物・心理・社会的アプローチを実践できるようになりました。

本講演では、外部環境を整える社会心理的アプローチを中心に、肯定的心理学の視点を手がかりとして、問題行動を否定的に評価するのではなく、「その行動にはどんな意味があるのか」を考える姿勢を共有したいと考えています。発達障害のある人の支援ニーズは多様であり、画一的な支援方法だけでは対応しきれません。支援とは状況の改善手法(その場をしのぐ方略)であり、課題の解決そのものではないという視点から、発達特性のアセスメントと問題行動のアセスメントを丁寧に行うことが、合理的支援の実践には重要です。

問題行動は、本人からのメッセージであり、体験を通して学ぶ過程の一部でもあります。動画・ゲームへの強い没頭には視覚認知優位という特性が、自閉スペクトラム症のこだわりには「手がかり」を必要とする認知のあり方が関係しています。言語発達の遅れと概念化の難しさの関係、言葉の曖昧さがもつ利点と困りごと、時間感覚と記憶の劣化の関係といった視点から問題行動を捉え直し、日々の支援に活かすためのヒントを提示したいと思います。



事務局からのお願い:

今般第12回日本シニア小児科医連盟総会・講演会は山口大学名誉教授古川漸先生が会長で、令和8年4月17日(金)17:30から下関グランドホテル「望潮」(3階)にて開催されます。是非皆様方のご参加をお待ちします。尚皆様のお知り合いのシニア小児科医の本連盟へのご入会をご紹介ください。宜しくお願いします。

日本シニア小児科医連盟ホームページをご参照ください。

日本シニア小児科医連盟

[HOME](#)[組 織](#)[内 規](#)[活 動](#)[ニュースレター](#)[事務局](#)

日本の小児医療への貢献と
未来へ続く健康で輝く日々のために

Quality of Life



【名誉代表幹事】

衛藤 義勝 財脳神経疾患研究所先端医療センター
東京慈恵会医科大学名誉教授

【代表幹事】

青木 継稔
浅見 直
朝山 光太郎
安次嶺 馨
阿部 敏明
雨宮 伸
荒川 浩一
有阪 治
飯沼 一宇
石井 榮一
石川 豊
泉 達郎
位田 忍
井田 博幸
市川 家國
伊藤 悦朗
伊藤 三吾
伊藤 進
井上 謙吉
猪股 弘明
伊予田 邦昭
岩田 力
上田 一博
植田 浩司
植地 正文
内山 聖
衛藤 隆
江原 伯陽
遠藤 文夫
大澤 眞木子
大関 武彦
大藺 恵一
太田 孝男
大野 耕策
大橋 十也
岡田 知雄
岡田 眞人
小川 實
奥山 虎之
小田 慈
加我 牧子
金子 堅一郎
金子 隆
河 敬世
衣笠 昭彦
熊谷 公明
黒川 徹
桑原 正彦
小池 健一
小泉 晶一
神津 玲子
河野 斉

新島 新一 順天堂大学名誉教授
東邦大学 名誉学長 名誉教授
福祉法人長岡療育園
東京家政学院大学健康栄養学講座
沖縄県立中部病院ハワイ大学卒後医学臨床研修事業団
あしかがの森足利病院
埼玉県社会福祉事業団 嵐山郷
群馬大学大学院医学系研究科
那須赤十字病院
認定NPO法人 子どもの村東北
今治市医師会市民病院
石川ファミリークリニック
大分大学名誉教授 国立七尾病院
大阪母子医療センター臨床検査科
東京慈恵会医科大学 医学部
信州大学
弘前大学大学院医学研究科地域医療学
篠原病院
香川大学医学部小児科学講座
医療法人 日吉いのうえ小児科
いのまたこどもクリニック
福山市こども発達支援センター
東京家政大学
医療法人三生会 みちがみ病院

東京福祉大学社会福祉学部
新潟大学 名誉教授
東京大学名誉教授・恵比寿こどもクリニック
赤ちゃん成育ネットワーク事務局エバラこどもクリニック
くまもと江津湖療育医療センター
立教女学院 理事長
浜松医科大学 名誉教授
医誠会国際総合病院
琉球大学大学院医学研究科育成医学講座
独立行政法人労働者健康福祉機構 山陰労災病院
東京慈恵会医科大学 看護学科 健康科学疾病治療学
神奈川工科大学応用バイオ科学研究部栄養科学生命科学科
聖隷福祉事業団 法人本部
小川クリニック
埼玉医科大学 医学部
岡山大学名誉教授 新見公立大学副学長
東京都立東部療育センター
順天堂大学 名誉教授
すずき小児科
大阪府立母子保健総合医療センター
京都府立医科大学地域保健福祉行政システム学
横浜総合病院 小児科
誠愛リハビリテーション病院
桑原医院
JA長野厚生連 南長野医療センター篠ノ井総合病院
小泉クリニック
神津小児科医院
福岡徳洲会病院

河野 陽一	地方独立行政法人 東金九十九里地域医療センター 理事長
児玉 浩子	帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科
小林 正夫	二本赤十字社中四国ブロック血液センター
小宮山 淳	松本秀峰中等教育学校
近藤 直美	平成医療短期大学
七種 啓行	さいくさ小児科
齋藤 加代子	東京女子医科大学
酒井 規夫	大阪大学大学院医学系研究科・医誠会国際総合病院
坂口 祐助	坂口こどもクリニック
佐々木 望	埼玉医科大学 かわごえクリニック
重松 陽介	福井大学小児科
城 宏輔	すずき小児科
白幡 聰	北九州八幡東病院
新宅 治夫	大阪市立大学大学院医学研究科「障がい医学・再生医学寄附講座」
杉江 秀夫	常葉大学 浜松キャンパス 保健医療学部
杉田 莞爾	山梨大学名誉教授
杉原 茂孝	東京女子医科大学 名誉教授
杉本 徹	滋賀県済生会看護専門学校
鈴木 悟	名古屋市立大学西部医療センター名誉院長
鈴木 順造	(公財) 福島県保健衛生協会 / 福島県立医科大学名誉教授
星加 明德	北新宿ガーデンクリニック
清野 佳紀	大阪病院
関口 茂	せきぐちクリニック
高嶋 幸男	国際医療福祉大学大学院教授 福岡/大川キャンパス
高田 五郎	仙台オープン病院
高橋 系一	道灌山学園 理事長
高橋 孝雄	慶応大学名誉教授 新百合ヶ丘総合病院小児科
高橋 弘昭	千葉市療育センター
高橋 幸博	東大寺福祉療育病院院長
高柳 正樹	千葉県こども病院
武谷 茂	久留米大学
田尻 仁	勇村医院・和歌山医大小児科 博士研究員
立花 克彦	神奈川県赤十字血液センター
田角 勝	たつのシティタワークリニック
田中 敏章	田中成長クリニック
谷澤 隆邦	たにざわこどもクリニック
田原 卓浩	医療法人社団たはらクリニック
玉井 浩	大阪医科薬科大学顧問・小児科名誉教授
玉置 知子	兵庫医大遺伝
長 秀男	川崎市南部地域療育センター
土屋 滋	東北文化学園大学
津留 徳	つるのぼるクリニック小児科
寺崎 智行	吉備国際大学看護学科
戸苅 創	名古屋市立西部医療センター 新生児 医療センター
富和 清隆	東大寺福祉療育病院
富田 和巳	こども心身医療研究所
中畑 龍俊	京都大学iPS細胞研究所
中村 肇	社会福祉法人 芳友
中村 友彦	長野県立こども病院
中村 みほ	名古屋学芸大学ヒューマンケア学部
中村 安秀	甲南女子大学
西 美和	広島赤十字原爆病院小児科
布井 博幸	愛泉会 日南病院
根津 敦夫	横浜医療福祉センター港南センター
橋本 清	日本医科大学 名誉教授

長谷川 行洋	東京都立小児総合医療センター 内分泌・代謝科 非常勤医師
長谷川 奉延	慶應義塾大学医学部教授 小児科学教室・慶應義塾大学病院臨床研究推進センター長
濱岡 建城	宇治徳洲会病院 小児循環器・川崎病センター
浜崎 雄平	佐賀整肢学園こども発達医療センター
早川 文雄	岡崎メイツこども発達クリニック 院長
早川 昌弘	医療法人 葵鐘会 小児科顧問
早坂 清	
原 光彦	和洋女子大学 家政学部 健康栄養学科
廣瀬 伸一	福岡大学医学部 総合医学研究センター
廣津 卓夫	ひろつ小児科
福嶋 義光	信州大学医学部遺伝医学教室 信州大学医学部附属病院 遺伝子医療研究センター
福永 慶隆	日本医科大学
藤村 正哲	大阪母子医療センター
船戸 正久	大阪発達総合医療センター
古川 漸	山口大学 名誉教授
平家 俊男	兵庫県立兵庫総合医療センター
別所 文雄	日本医療科学大学保健医療学部
保科 清	山王病院小児科
細井 創	同支社女子大
細谷 亮太	聖路加国際病院
堀内 勁	聖マリアンナ医科大学 名誉教授
松石 豊次郎	聖マリア病院 小児総合医療センターレット症候群研究センター
松尾 雅文	神戸学院大学 総合リハビリテーション学科
松平 隆光	日本小児科医会
眞弓 光文	福井大学
丸山 健一	群馬県立小児医療センター
水谷 修紀	東京医科歯科大学/川崎市北部地域療育センター
南 武嗣	みなみクリニック
宮島 祐	東京家政大学子ども学部こども支援学科
宮田 晃一郎	重症障害施設オレンジ学園
麦島 秀雄	川越予防医療センター・クリニック
村上 睦美	東京都予防医学協会 保健会館クリニック
村田 光範	和洋女子大学保健センター
森川 昭廣	社会福祉法人希望の家 北関東アレルギー研究所
山形 崇倫	自治医科大学 小児科
山口 洋一郎	やまぐち小児科
山城 雄一郎	順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座
山野 恒一	四天王寺和らぎ苑
山本 正士	社会福祉法人慈愛会医療福祉センター聖ヨゼフ園
山本 仁	聖マリアンナ医科大学小児科
横田 俊平	フジ虎ノ門こどもセンター
横谷 進	福島県立医科大学 甲状腺・内分泌センター
横山 隆	医療法人 横山小児科医院 シルバー人材
吉岡 章	奈良県立医科大学
芳野 信	久留米大学高次脳疾患研究所
脇口 宏	高知地域医療支援センター

新幹事候補のお知らせ

加藤 伴親(医療法人瑞心会 介護老人保健施設サンバーデン 副施設長)

橋都 浩平

安元 佐和(福岡大学医学部 総合医学研究センター 教授)

土屋 喬義(医療法人 土屋小児病院 理事長)

吉原 重美(獨協医科大学名誉教授・獨協医科大学小児科学特任教授・獨協医科大学病院アレルギーセンター長)

鬼形 和道(島根大学医学部附属病院 特任教授・島根大学 副学長 特命)

藤田 之彦(社会福祉法人 全国重症心身障害児(者)を守る会:常務理事、保健医療・福祉施設 あしかがの森:所長、あしかがの森足利病院:前院長)

香美 祥二(徳島大学 理事、副学長)

真部 淳(北海道大学大学院医学研究院 小児科学教室 教授)

齋藤 伸治(名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野・特任教授)

下条 直樹(千葉大学附属病院アレルギーセンター客員教授 千葉大学医学部小児病態学協力研究員 千葉大学予防医学センタープロジェクト研究員)

新しい会員をご紹介します

どなたかいらっしゃいましたら下記アドレスにメールを頂戴できますと幸いです。
何卒よろしくお願い申し上げます。

jspa2014.staff@gmail.com 事務局